

「学校創立を祝う日」に際して

金沢高等学校の歴史について

10月20日は金沢高等学校の創立を祝う日ですが、皆さんが通っているこの『金沢高等学校』の歴史について詳しく知っている人は意外と少ないかもしれません。そこで、これを機会に金沢高校の歴史に触れてみたいと思います。

金沢高校の歴史は、創設者・河合常治先生かわいつねじによる昭和3(1928)年の金沢中学校開校に始まります。当時、石川県の旧制中学校には一中、二中、三中などがありましたが、大正時代より中学校の入学難が社会問題化していたのです。そこで、河合常治先生は多くの少年たちの向学の希望を叶えるため、私財を投げうって県内初の私立中学校を創設されたのです。学校が現在の泉本町に移転したのは同年9月のことですが、校歌の冒頭『一望十里加賀平野』いちぼうじゅうりか が へいやとあるとおり、見晴らしの良い水田の真ん中に木造二階建ての新校舎が建てられました。第一回の入学生は、180名でした。『清浄の泉の地』で学ぼうとする生徒たちの瞳は喜びで輝いていたということです。

その後、昭和23年に学制改革のため金沢高等学校という名称に変更となります。開校当初は男子校でしたが、昭和33年に男女共学となり、昭和35年には校舎も鉄筋四階建てとなるなど現在の金沢高校の基礎が固められていきました。以後、生徒数は年を追うごとに増加の一途をたどり、一学年の生徒数が700人超、クラス数も17クラスを数える時期がありました。

以上が金沢高等学校の略歴です。金沢高校が創設された当時の歴史に触れることで、皆さんが、なお一層、学校に愛着と誇りをもって生活していただけることを願っています。

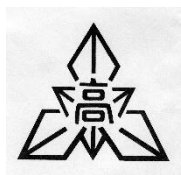
※詳細については、学校ホームページ(デジタルパンフレット「学校要覧」)にて確認してください。



本校の校歌と校章について

次に、本校の校歌と校章について触れたいと思います。

本校の校歌は昭和6(1931)年11月25日に出来上がりました。作詞は大藪虎亮先生、作曲は当時本校の音楽科教諭であった東駒太郎先生です。現在、東先生直筆の楽譜は残念ながら残っていませんが、平成17年に作曲家の大能正紀先生(金沢市)に依頼し、ピアノ伴奏による校歌の楽譜を作成していただきました。2年後には創立95周年の節目の年を迎えます。日頃、耳にする校歌の歌詞一文字一文字に思いを馳せ、校歌を聞いてください。



本校の校章は、大きなペン先3個と小さなペン先3個を組み合わせています。大小3個ずつのペン先は、人格を形成してゆくための「知・徳・体」を表しています。

～お知らせ～

図書室では、金沢高等学校の周年行事の際に刊行された記念誌を閲覧できるようになっています。是非とも自分の目で学校の歴史を感じていただければ幸いです。